

## フラ訪問の記

篠田 皎

6月の日食は各地共晴天の裏に無事終了しました。そして空前の過熱ぶりだったマスコミによりますと、今回も又「今世紀最大・最後」でしたが、最大でも最後でもないことは御存知の通りです。

特にニューギニア島では2年も連続して皆既日食が見えるのです。「日食情報」1982年第1号や、「黒い太陽を求めて」等によりますと、皆既帯はインドネシアのハルマヘラ島付近に始まり、ニューギニア島を斜に切ってバブア湾に出、ポートモレスビー（以下PMと略記）の少し南を通過して珊瑚海・南太平洋へと抜けます。

したがって陸上で皆既食を見ることができるのはニューギニア島に限られるのですが、PM以西に適地を求めるのはかなり困難かと思われます。継続時間が短く、高度が低い上に交通の便が極端に悪い地域だからです。

しかし本影がバブア湾を横切って外海に出る時、わずかに陸地をかすめていきます。PM南東90kmのフッド岬で、ここは1年半を隔てて2回も皆既日食が見えるという珍しい土地なのです。

私達は今回の日食を見るためPMに旅した際、足を伸ばしてフッド岬先端の村フラを訪れて参りました。下見と言う程の事はないのですが、一応報告しておきます。

PMからフラに向う道路は海岸と平行して走るリゴ街道で、私達もこの道を往復しましたが、途中から東に折れて内陸部のクワイキラを通る道もあります。

道程は120km位でしょうか。しかしすべて未舗装の地道で、にぎやかな音を立てる橋が二、三ヶ所も架っているような状態でしたから意外に時間を食います。往路は少々道草をしますので三時間半、帰路はかなり飛ばしたのに、やはり三時間近くかかりました。地図で見ると海岸沿いの道なのですが、その割に海の景色が見えない道中でした。なおPMを出ますとガソリンスタンドは一軒もありませんから、レンタカーの利用を考えている方は御用心下さい。

半島部の地形は全体として平坦で、見はらしの良さそうな丘は一つも気付きませんでした。そして、ちょっとした荒地のむこうに見える椰子林が目指すフラ村だったのです。ここはPM近郊と同様メラネシア系に属するモツ族の漁村で、住居は高床式です。

岸は非常に遠浅の砂浜のように見えますが、少し遠くまで出ると珊瑚礁に変わります。砂浜のすぐ間際まで木立がせまっていますから、三脚の使用には注意が必要でしょう。そのような意味で、観測地は海岸よりも村内か、村に入る手前の路傍に適地をさがす方が良くも知れません。しかし、何と言っても狭い村のことです。場所の確保については事前に十分な理解を得ておくべきです（特に多勢で押掛け、自分達のまわりに立入禁止の縄を張る場合）。

さて私達がフラに着いたのは6月10日の昼頃でした。この地に来る日本人はよほど珍しいらしく、村人達は人なつっこい態度で迎えてくれました。観光客ずれしていない南海の人々は本当に気持の良いものです。

海岸で弁当を片付けた後、この村のミニスターの家を訪問し、今後の協力をお願いしました。案内してくれたのは息子さんだったようです。

ミニスターは今回及び来年の日食の事はよく御存知で、ケンブリッジや中国からも下見に来ている、との話でした。「星の手帳」春号には、フッド岬で二年続きの日食を見るグループについての記事がありましたが、それに関係した話題は出ておりません。

私達は村の状況に満足して引上げることにしたのですが、村の出口で急に通せん棒——それも花で飾った——をされて二、三人の女の人の窓から手を突込まれた時には本当に吃驚しました。また帰途の数ヶ所でも少年の群に呼止められたものです。運転手の話を自己流に解釈すると、共同基金のような運動かと思われます。

来年の日食は早朝から始まり、現地時の7時すぎに皆既となります。

ところがフラ地区は総人口約8,000が19の村落に分れて住んでいるに過ぎません。一番大きいフラ村の人口も知れたものですから、旅館はもとより、まともな商店一つ見当らない本場の漁村です。またPMからは三時間もかかる所です。したがってフッド岬方面で皆既を見るには、それなりの工夫乃至覚悟が必要となります。たとえば次のような手段が考えられるでしょう。

1. 現地に於て文字通りの民宿をたのむ。しかし小さな村ですから何人位収容できるかは疑問です。
2. テントを持込む。あるいは自動車の中で一夜をすごす。
3. クワイキラで宿屋をさがす。フラの北方約30km(道程約45km)にあるクワイキラの同地方最大の町です。ここで宿泊できれば皆既帯まで1時間しかかからないはずです。
4. PMのホテルで夜半まで休養し、未明に出発する。
5. 現地の旅行業者に一任する。先方は商売ですから、どんなことでもやってくれるでしょう。テント村や掘立小屋を仮設したり、村の中で大きそうな建物を借切ったり……。しかし先方は商売ですから掘立小屋一泊にウン万円、と言うことになりかねません。1973年のアフリカでもそのような話を聞いております。

いずれにもせよ、あの村に多数の外国人が押寄せる事は種々の意味でショックを与えることでしょう。それが良い方向に向かうきっかけになれば嬉しいのですが……。

発想を変えて、船や飛行機の利用を考える方が良いかも知れません。恐らくPM、シドニー(オーストラリア)、ヌーメア(ニューカレドニア)、オークランド(ニュージーランド)等を起点とした計画が発表されるのではないのでしょうか。フラの風光・人情は誠に捨て難いものですが、継続時間や快適さ等を考えると迷わざるを得ません。

皆様方も、各ツアーの内容が明らかになった時点で考えて頂きたい、と思います。

ともあれ下見というよりも野次馬根性で出掛けたものですから、他のグループの参考になり  
そうなることが書けずに残念です。しかし私達より組織的な行動力で有名なグループや、人数の  
多い団体がいくつもPM入りをして居りましたから、その方々の発表される下見記録の補足に  
でもなれば幸甚に存じます。

なお、この地方のもっとも詳しい地図は10万分の1と25万分の1の二種類です。すでに  
PMの地図は5万分の1が発行されていましたから、来年になればフラの5万分の1が手に入  
るかも知れません。